

敦賀発電所の敷地内破砕帯の評価に関する事実関係について（その 14）
「66 の問題点」に関する検証⑥＜論点のすり替え＞

当社は、平成 27 年 3 月 25 日の原子力規制委員会において有識者会合が報告した「日本原子力発電株式会社敦賀発電所の敷地内破砕帯の評価について（その 2）」^{*1}（以下、「評価書」という。）について、科学的、技術的観点から詳細な分析を行った結果、「66 の問題点」^{*2}を確認し、その内容を技術的な観点から整理して、去る 4 月 16 日に公表資料により指摘しました。

評価書においては、論点をすり替え、肝心な議論を避けている事例が 3 箇所ありました。今回は、その代表例をご紹介します。

＜論点をすり替えている例＞

1. K 断層の連続性（K 断層の南方への連続性）

【評価書の記載】

＜有識者による評価＞

「・・・K 断層が D-1 トレンチ南方においてほとんど変位が認められなくなると限定することはできず、また南方へ連続している可能性も否定できない。さらに、2 号炉原子炉建屋直下には、D-1 破砕帯ほか多数の破砕帯が存在しており、また K 断層は複数の破砕帯を変位が乗り継いでいる可能性もある。したがって、有識者会合は、K 断層は、D-1 破砕帯等、原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できないと判断した。」（17 ページ^{*1}）

【事実関係】

- ・当社は、「66 の問題点」に関する検証③＜具体的な根拠を示していない＞^{*3}で詳述しているように、以下に示す観察事実から、K 断層が南方（2 号機原子炉建屋の方向）に連続している可能性や、D-1 破砕帯をはじめ、その他の破砕帯と一連の構造である可能性は完全に否定されることを確認しています。
 - a. K 断層は、原電道路ピットにおいてほぼ消滅している
 - b. 原電道路ピットの南方や 2 号機原子炉建屋近傍で実施したボーリング調査では、K 断層と同じ「逆断層」変位を示す破砕部は全くない
- ・過去 2 年半の有識者会合及び原子力規制委員会の議論では、終始「K 断層と D-1 破砕帯との連続性」が論点であったにも拘らず、今回の評価書では、突然、論点をすり替え、具体的根拠を全く示すことのないまま「原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連」として、極めて重要な結論部分を変更しています。

・しかしながら、D－1 破砕帯以外の破砕帯とK断層の連続性は、これまでの公開の場での議論で論点となったことは一度もなく、さらにそれらに関するデータも全く示されたことはありません。

・それにも拘らず、評価書では、“K断層は、D－1 破砕帯等、原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない”と結論付けていることは、評価書（平成25年5月22日）において「D－1 破砕帯の連続性」を評価項目としていたこと、および原子力規制委員会（平成25年12月18日）において「K断層とD－1 破砕帯との関連」を議論するとしていたことに対し、**論点をずらして結論付けています。**

これは、この問題が評価書の結論に直接係わる重大な問題であるだけに看過できません。

また、ピア・レビュー会合においても、レビューから同様の指摘がありました。

【ピア・レビュー会合】

「・・・K断層というのとD－1 破砕帯、全く違うものじゃないかと。いろんな観点からですね。そういうふうに私は現場で詳しく見たつもりではいます。」（27ページ※4）

なお、これまでの有識者会合や原子力規制委員会の場においては、「K断層とD－1 破砕帯との連続性」が論点となっており、「いずれかと一連の構造」について公開の場で議論が行われていないことは、以下に示す、公開された資料及び議事録からも明らかです。

【第36回原子力規制委員会（平成25年12月18日）の配布資料】

4. 有識者による議論が必要と考えられる事項（今後の主な検討事項案）
（2）K断層の連続性について
・ K断層とD－1 破砕帯との関連（3ページ※5）」

【第36回原子力規制委員会（平成25年12月18日）における議論】

「・・・K断層とD－1 破砕帯との関連、こういったものについて、議論が必要と考えられる・・・（8ページ※6）」

【追加調査評価会合（平成26年4月14日）における議論】

「・・・問題は二つで、K断層の最新活動年代が12万、13万年前よりも前か後かという話。それから、K断層とD－1 破砕帯との関係です。（21ページ※7）」

【第4回追加調査評価会合（平成26年9月4日）における議論】

「・・・、仮にK断層が古いとしても、それとD－1との連続性を議論することは必要だし、・・・（50ページ※8）」

【第5回追加調査評価会合（平成26年11月19日）における議論】

「・・・K断層は、D－1 破砕帯と一連の構造であるという可能性が否定できないと考える・・・（12ページ※9）」

以上のとおり、評価書には根拠を何ら示すことなく、**論点をすり替え、肝心の議論を避けている事例が、3箇所あることが確認されました。**

上記の内容詳細については、下記※２の資料にある問題点の番号（２８，５２，６４）を参照ください。

※１：平成27年3月25日 原子力規制委員会【資料4-2】

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000101517.pdf>)

※２：当社公表「敦賀発電所の敷地内破砕帯に係る「評価書（平成27年3月25日）」の問題点について」

URL (<http://www.japc.co.jp/news/other/2015/pdf/20150416.pdf>)

※３：敦賀発電所の敷地内破砕帯の評価に関する事実関係について（その11）

「66の問題点」に関する検証③＜具体的な根拠を示していない＞

URL (<http://www.japc.co.jp/news/other/2015/pdf/20150522.pdf>)

※４：ピア・レビュー会合（平成26年12月10日）議事録

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000090805.pdf>)

※５：第36回原子力規制委員会【資料2】

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000047752.pdf>)

※６：第36回原子力規制委員会 議事録

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000047888.pdf>)

※７：追加調査評価会合 議事録

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000051357.pdf>)

※８：第4回追加調査評価会合 議事録

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000051360.pdf>)

※９：第5回追加調査評価会合 議事録

URL (<http://www.nsr.go.jp/data/000090804.pdf>)

以 上